

羽源記を考れも今の大堂ハ本地堂と見え
より古家今阿久谷を本羽忌といふを考ハ
被も今の羽忌ハ遷座とも見えより法院一
なるも子威の根といふハ阿久谷の事未
は沼を相伊波波といふハ出羽の万葉出よて
因川郡の地名なりより別巻より相多江傳れ
る略之小寺氏曰伊波波神社を云ふ所なり
是古俗る年以前といハ羽忌ハ大堂額伊波波社
社とありーといり伝正又曰東鑑萬経記
の類云外郡史亦ハ羽忌と稱ーて伊波波

神社といふ事なり是又傳を考るるといハ
ハ續日本紀三代天皇詔亦を能見さるり處
三山雅集より久傳傳正流海の歌ハ貞享年
山より高山の代
よりこれ傳なり高山をいへハの奥の山寺と
詠ー又芭蕉翁も兼龍をこれ

詠ーや山を出羽の初めなり
といふを跡され後五位下法親出羽月と
吟ー又酒田政重出羽の山とよこ成ハ天立
出羽の山とよあり古歌より陸奥よりをこ
出羽の極數の山にとよあり歌の心別巻板

桃青